



能登やさしいこめづくり情報

平成29年4月
能登米振興協議会
能登米生産者協議会
J A おおぞら

播種・育苗編

育苗日数は1か月以内

うまい・きれいなこめづくりは健苗育成から！

昔から「苗半作」といわれるように、苗づくりの善し悪しはその年の収量や品質に影響します。

良い苗とは「がっちりした太い苗」です。決して「長い苗」ではありません。苗丈の長い苗（大苗、徒長苗）は、その見栄えとは異なり、活着不良や初期生育不足となり、最終的に収量の減少や品質の低下を招きます。「がっちりした太い苗」を育成するには、播種から育苗期間を通じた細やかなハウス内の温度管理と水管理が必要になります。「5つの1か月対策」の一つである「育苗日数は1か月以内」を目安に健苗育成に努めてください。

○播種作業について（「播種準備編」参照）

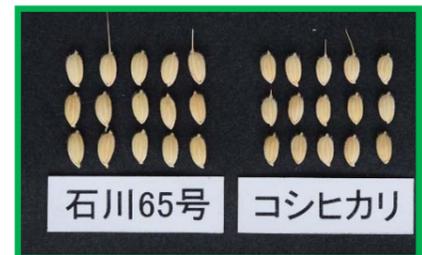
(1) 田植えの予定にあわせて計画的な播種を行きましょう。

播種日は、田植え予定にあわせた時期とし、健苗育成に努めましょう。

また、晩植（5月20日以降の移植）の苗については育苗期間の気温が高いため生育が早まるので、播種日に注意してください。

(2) 大粒品種は播種量が多くなりますので播種機の設定に気をつけてください。

品 種	乾粒重 (g/箱)	播種量 (g/箱)
コシヒカリ	120	156
能登ひかり	145	189
ひやくまん穀（石川65号）	150	195



(3) 病気の発生を防ぐため、出芽時の温度に気をつけてください。

苗立枯病を防ぐため、「ダコニール1000」の500～1,000倍液を箱当たり500ml 散水処理してください。

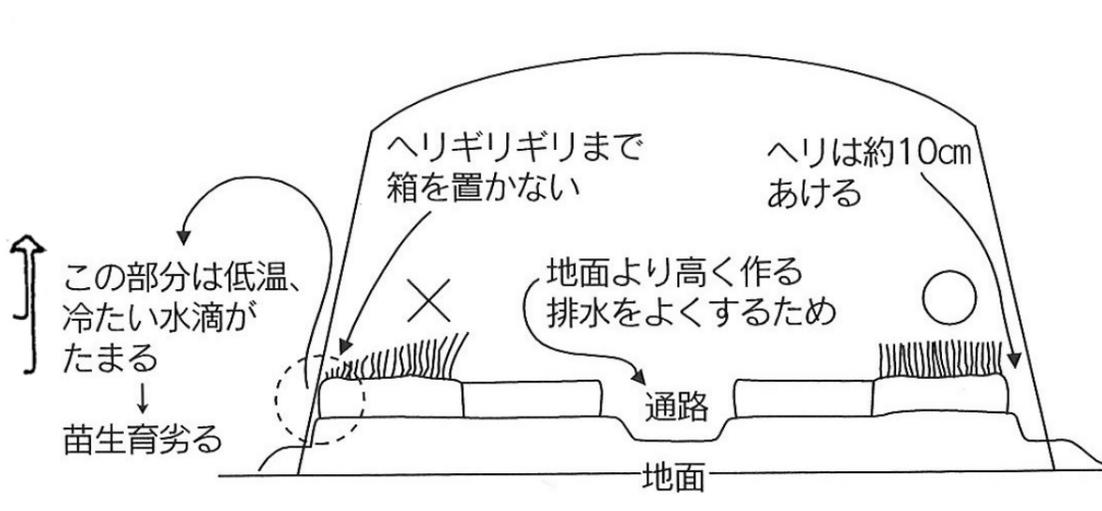
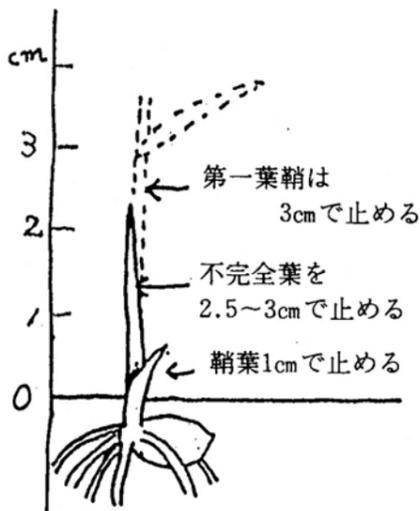
また、細菌性病害の発生を防ぐため、出芽器内の温度を30℃以上にしてください。

※ 種子消毒にタフブロックを使用した場合、ダコニール1000は使用できません。

○育苗管理について

(1) 育苗初期（緑化期：3～4日間）

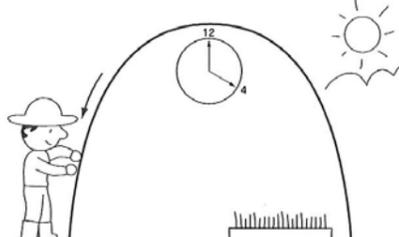
緑化期	温度管理（温度計は苗の高さに設置）	水管理
 被覆資材は苗の緑化を認めたら、直ちに外す（2～4日）。	昼間：20～25℃ 25℃以上の高温にならないようにハウス内の換気を行う。 夜間：15～20℃ 15℃を下回るときや降霜が予測される際には被覆資材で保温する。	<ul style="list-style-type: none"> 土が乾かない限り灌水しない。過湿状態が続くと出芽遅れや病原菌の発生を招く。 覆土の持ち上がりがある場合は軽く灌水し、一度に落とさない。



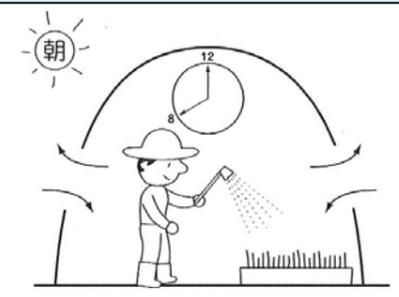
※苗箱は置き床と隙間なく水平に並べる。

※ハウスのへりは温度が低くなるので、10cm程度あけておく。

(2) 育苗中期（硬化前期：8～10日間）

硬化前期	温度管理	水管理
 <p>夕方にはハウスを閉め、夜の温度低下に備える。</p>	<p>昼間：15～20℃</p> <p>晴天時は朝から換気し、換気する場合は、風が入らないよう風下側を開ける。（夜間の低温が予想されるときは、午後早めに閉める。）</p> <p>夜間：10～15℃</p> <p>15℃を下回るときや降霜が予測される際には被覆資材で保温する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・灌水は床土の乾き具合を見て、朝1回行う。 ・夕方の灌水は控え、必要な場合は翌朝灌水を行う。 ・雨や曇の日は灌水を控える。

(3) 育苗後期（田植前：8～10日間）

硬化後期	温度管理	水管理
 <p>晴天時には朝7～8時には換気と灌水を行う</p>	<p>昼間：15～25℃</p> <p>日中は必ず換気し、田植えの数日前から外気温にならす（順化）。</p> <p>夜間：5～15℃</p> <p>田植え数日前からは夜間も換気する。ただし、極端に冷え込む日は、保温に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝1回、十分に灌水する。 ・風の通り道や苗箱の周辺部は乾きやすいので十分に灌水する。 ・2回目の灌水が必要な場合は、午後3時頃までにすませる。

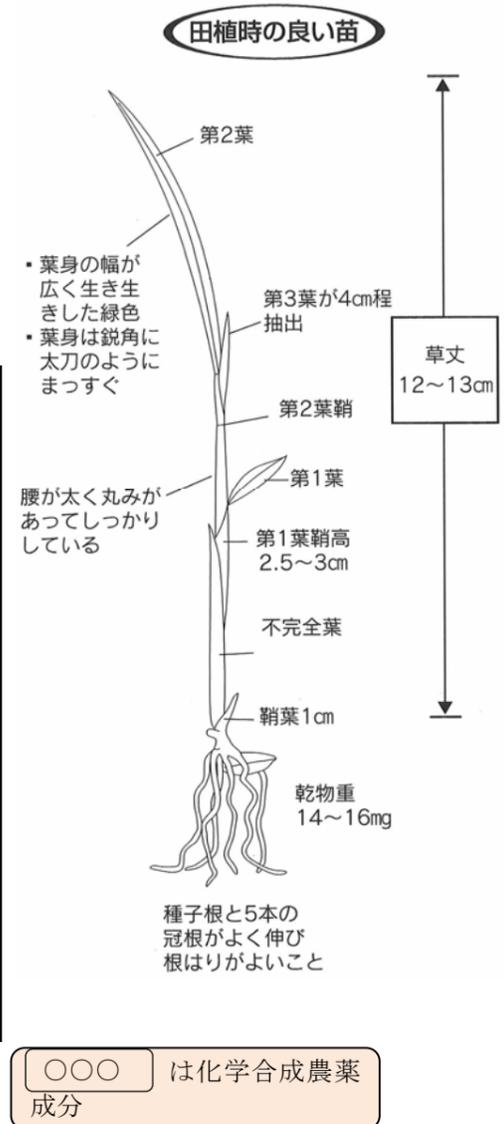
○育苗期間の病害対策

病害虫発生予報（3/16日発表）において**苗立枯病（ピシウム菌）の発生は“やや多”**と発表されました。このため、以下の対策の徹底をお願いします。

- ① 被服資材を長くかけすぎないこと
- ② 高温時には換気し、高温（35℃以上）多湿条件にしないこと
- ③ 緑化期以降は、急激な温度変化や多湿条件で△レ苗が発生しやすくなるので、日中は25℃以上、夜間は5℃以下にならないように換気や保温に努めること

症状	病原菌	原因等	対策等
白カビ 青カビ	リゾーフィウム菌 トリコデルマ菌	<ul style="list-style-type: none"> ・育苗初期によく見られ、高温・過湿条件で発生する。 ・換気を十分に行い、土の表面が乾き始めるまで灌水しない。 	<p>2成分</p> <p>ダコレート水和剤（※1） 500倍液を500ml/箱かん注</p>
赤カビ	フザリウム菌	<ul style="list-style-type: none"> ・高温条件で発生しやすい。 	<p>1成分</p> <p>タチガレン液剤（※2） 500倍液を500ml/箱かん注</p>
△レ苗	ピシウム菌	<ul style="list-style-type: none"> ・急激な温度変化によって発生する。 ・Ph5前後の通気性のある床土を使用 ・低温時は保温資材をかける。 ・夜間冷えた次の日が晴天の場合は、早めにハウスを開ける。 	<p>1成分</p> <p>タチガレン液剤 500倍液を500ml/箱かん注後、寒冷紗等で遮光して蒸散を抑制する。</p>

※1 種子消毒にタフブロックを使用した場合、ダコレート水和剤は使用できません。
※1、2 ダコレート水和剤、タチガレン液剤を使用する場合は、お近くのJAへご相談ください。



2017年 春の農作業安全確認運動（3～5月）の実施について
「一人一人の安全意識と周囲からの「声かけ」から始まる農作業の事故防止」

毎年、約350件前後の農作業死亡事故が発生している状況の中で、農作業事故防止に向けた対策を強化し、事故件数を減少させることが喫緊の課題となっています。

事故を防止するには、農業者一人一人の安全意識の向上だけでなく、さらに周囲からの「声かけ」で一層の事故防止意識を持ってもらうことが必要です。作業前には、みんなで安全であることを確認して作業をするように心がけましょう。

